

インタビュー 新人先生に聞く②

子どもの成長が間近にみられる

仕事に感動しています

—小学校教員のB先生(女性)—

編 集 部

—教員になって何を感じましたか

まず、45分の授業はともパワーがいるということを感じています。上手くいったと思える授業はあまりなく、授業をやる度に「自分は教師に向いていないのではないか」と落ち込みました。そして、叱つてばかりいる自分に気がつき、もっと褒めないと……と反省します。そんな時は、子どもの笑顔に助けられてきました。反省ばかりの毎日ですが、子どものちよつとした成長を見るだけで、苦しいけど頑張つてよかつたな

と思えます。教員の仕事は大変な面が多いですが、やはり楽しいです。早く採用試験に合格して、担任を持ちたいです。

それから、ある先生の「教材研究は二の次になってしまふ」という言葉に、やはり現場は事務的な仕事に追われているのだと感じました。一番にやらなければいけないのは、子どものことを考え教材研究をすることであるとわかっていながらできない……大学の頃は、授業づくりについてたくさん考えてきたので少しギャップを感じました。しかし、現場に入ってみると私自身

も「明日」の授業を考えるので精一杯という風に感じます。

—子どもたちのトラブルには

どう対処していますか

トラブルが起きたときには、まず子どもの話を聞いて、私が解決できることであればその場で解決してきました。しかし、色々な事が重なって起きたトラブルとなると解決に時間がかかってしまうので、様々な学年に出張授業している私は担任の先生に任せるようにしています。また、私がメインで授業しているときにトラブルが起こった時にはインターホンで担任の先生を呼んで来てもらい、その子どもたちと話をするのは任せて、授業を進めるようにしていました。1年目の私に周りの先生方はとても親切で、「いつでも呼んでください」と言ってくれました。今でも、他の先生方からたくさん助けていただいています。

—学校での日常はどうなっていますか

昨年度は、副担任として学級に入っていたので7時50分くらいには登校して、授業の準備をしたり担任が

いない時には朝学習の指示をしたりしていました。朝の会が終わると、1時間目はいつも宿題点検の時間につかっています。2時間目以降は、自分のメインの授業やIT（チームティーチング）の授業など日によっては空き時間が1時間もないということもありました。図工を2クラス担当していた関係で、文化祭のあった10月は昼休みもない状態でした。1学期は学校にいる間に授業の準備をすることができず、家に帰ってからやるが多かったです。そのため、採用試験の勉強は二の次となっていました。また、授業の進め方に悩んでしまい前日に準備ができなかった時などは、次の日とても焦った気持ちで過ごしていた覚えがあります。なるべく早めに学校を出るようにしていましたが、出張授業をしている私は、担任の先生と放課後打ち合わせなどをしていると、6時を過ぎることが多かったです。

級外になった今年度は、朝の時間に余裕ができ、学校にいる間に授業準備もできるようになってきました。今では、退勤時間に学校を出る日が殆どです。周りの先生方も気を遣ってください、勉強ができるようにと声をかけてくださいます。

—職員会議では自由に話せますか

学校全体に関わることは、まだまだ知らないことが多いので自分が意見するということはありません。わからないことがあったら質問する程度です。会議の最後にも行われる子どもとの情報交換では、気がついたことは言うようにしています。殆どの学年の子どもと関わっている私にとっては、この時間はとても大切です。

—校長先生とは話し合うことがありますか

校長先生と個人的に話し合う機会を持ったのは、採用試験について、次年度の勤務先について、この2回くらいだったと思います。普段、あまり指導を受けることはありません。時々、給湯室で一緒になった時はほんの少し話をするくらいです。

他には、授業の関係で何度か話し合う機会はありません。特別な支援が必要な子どもたちの個別指導に関わっていたので、関係する先生方を交えて話し合うことがありました。校長先生もそのうち2人の子どもたちの授業を担当していました。他にも、出張で担任不

在の時には授業をやってくださいだったり、専門教科の授業をやってくださいだったりしています。

—教員になってから2年が経ちますが、

今の感想を話してください

教員という仕事はやはり忙しく大変だと思います。子どもとの付き合い、保護者との付き合い、同僚との付き合い、事務作業の多さ……など。でもその半面、教員という仕事は多くの子どもたちの成長を間近でみることのできるすばらしい職業だと思います。大学4年生の頃からボランティアでお世話になっている現在の学校は実質3年目になります。1年生だった子どもたちはもう3年生です。子どもの成長は早いものだなあと感じます。子どもとともに自分自身も教員として日々成長していけたらと思っています。

(聞き手・大滝浩道)

